

南沢支流ツの沢左俣，右俣

1988年5月15日

665m独標は尾根上の小さなコブである。登路はなく展望にも恵まれないが、木々の間から大笹山などいくつかのピークが見え、これを頼りに方向を定めて、ツの沢(仮称)に向けて8:05下降を開始する。急斜面を一気に下ると沢の源頭に出る。尾根からの下降路がえらく急峻であるのに、沢の流れはえらくゆったりとしている。入溝は古い山塊である。得食が進みすぎ、沢は深い切れ込みとなったものの、沢筋そのものの傾斜はかえってなだらかになってしまったようである。

源頭から少し下ると、二俣。そしてここからはナメとなり、水量も増えてきた。やがて4mの滝。ナメ状であるが、スタンスが豊富で、クライミングダウンの必要もないくらいである。そして2mの小滝。これは左岸のツの俣をかみながら、慎重にクライミングダウンする。その下の3mは階段状で、簡単に下る。その先が右俣出合であった。

右俣は小滝がちょっとあっただけで、10分程遡った所で源頭となった。ここらあたりの沢の源頭は、いずれも落葉がびっじりと積り、その間をぬうようにして水が流れている。訪れる人は滅多にいないが、ブナ林の中のしっとりとした霧間気を味わうことができる。滝を登ったり、急流や岩場をへつったりというハードさはないが、独特の趣をもった源流歩きを楽しむことができる。

右俣出合より下流部は、小滝2つが出でただけで、平凡なままに終わった。

ツの沢は、終始花崗岩の沢床であった。こうした沢の下降はつくづく楽だと思う。ナメ状になっていても、小さなスタンスやホールドが豊富にあり、フリクションはバッチリである。霧間氣的にも独特の明るさがある。私は大好きである。

(記)

[タイム] 665m独標(7:55)→右俣出合(8:20)→右俣終了(8:30)→下降終了(8:45)

